

## 個別相談以外の学生相談活動の最近の動向

Recent trends of University Counseling Services  
except individual counseling.

岩 橋 知 子

Tomoko IWAHASHI

保健管理センター

(平成17年9月30日受理)

### 1. はじめに

社会情勢や、大学、学生の抱える問題の質的变化に影響を受け、学生相談の方向性や実態は常に変化してきている。文部省(現文部科学省)は2000年6月に「大学における学生生活の充実方策について—学生の立場に立った大学作りを目指して—」という答申(広中レポート)において、大学はこれまでの教員中心ではなく、学生中心の大学への転換が必要と発言し、学生相談を含む、学生に対する指導体制の充実を提言している。以来5年経過した現在、学生相談の現場では、それらを受けて、どのように取り組み方を変えてきているのであろうか。

学生相談部門においては、各大学の組織における位置づけや、学生相談組織の構成、歴史や人員体制、活用できる資源、対象となる学生像やそこでのニーズに合わせて具現化する必要があり、実際に展開されている学生相談への取り組み内容は各大学によって多種多様なものとなっている。

また、今日の大学生の心理的危機感の高まりとともに、大学における学生相談の取り組みにも打開の方策を求められているが、各大学において実際にどのような活動に取り組んでいるのかについて大規模な調査は行われておらず、現状の把握は困難である。

一方、学生相談に関する展望論文に関しては、学生相談界の動向(斉藤, 2002. 早坂, 2003. 吉武, 2004.)と学生相談の研究動向(太田, 2003. 小林, 2004.)と毎年のように報告がなされているが、過去5年間の活動内容と、その流れを追った文献レビューはなされていない。

そこで、本稿では、今後の学生相談のあり方を展望するために、2000年度から2004年度の5年間

に発表された文献から、個人面接以外の学生相談における取り組みの動向について概観し、紹介する。それらを踏まえた上で、学生相談の今後の展望を述べることを目的とする。

本稿で対象とした文献は、学会誌においては、「学生相談研究」「心理臨床学研究」「集団精神療法」等であり、各関係機関発行の紀要、及び、報告書において公開されている論文、活動報告、また、各種研究協議会誌に発表された活動報告も取り上げている。(学会誌以外で入手できた文献は、2000年103冊、2001年105冊、2002年89冊、2003年75冊、2004年72冊となっている。)対象とした文献の形式は、調査研究、事例報告、活動報告など多岐にわたり、その中で文章化されたものとなる。そのため、本稿で入手できていない実際の取り組みもあることが予想されるが、ご了承いただきたい。

その中で、今回取り上げた活動の範囲は、学生相談を行う機関が主催し行った取り組みに限定し、大学内の他の部署が主導し行っているものは省いている。

さらに、いずれの機関も重点的に力を入れている狭義の個別相談、広報活動、講演会、他部署主催の学生支援会議等については、本稿では取り上げない。すなわち、学生相談の枠組みの中で行われている個別相談以外の成長・発達支援、および教育、相談活動を把握し、その流れを追うこととする。

### 2. 年度別学生相談活動の動向

#### 2000年度における活動

大阪教育大学保健管理センターは、さまざまな

意味合いでの出会いを促進するために「非構成的エンカウンター・グループ」(3泊4日)を行い13名の参加者を得ている。

香川大学保健管理センターでは、従来から行われていた健康診断時のUPI調査に基づく「スクリーニングによる呼び出し面接」を行ったり、また「自分つきあう、自然とつきあう、人とつきあう、探しています、新しい自分の生き方」をキャッチフレーズに2泊3日(参加者10名)のエンカウンター・グループを実施している。また、人といながら自分の声を聴き、自分を取り戻す課題に挑戦する目的で、教育としての非構成型「エンカウンター・グループ」を2泊3日(参加者25名)で行っている。

鹿児島大学保健管理センターは、新入生呼び出し面接を行っている。

九州国際大学学生相談室は、気軽に立ち寄れる「フリースペース」,「読書会」,「クリスマスパーティー」を催すなどのイベント方式で相談室の敷居を低くし、認知されるよう努めている。

その一方で、大学が行う、成績不良者・演習長期欠席者の面接に、学生との関わり方の資料を提出し、一部同席するなど、心理的な問題を抱え潜在的なニーズがあると思われる対象者に対して、積極的にコミットしていく姿勢で取り組んでいる。

また、注目すべき点は、「大学生活の中で困っていることリスト」を作成し、その結果を相談室が提供できるプログラムとフローチャートで繋ぎ、学生がその場で活動を認識できる方略をとったり、「学生生活とグループ活動のニーズについてのアンケート」を学生に実施している点である。ニーズを汲み取り、即、学生相談につなげて認識させる工夫は非常に参考になる。一方で学生だけでなく、各大学で行っている「各種グループアプローチに関する調査」も実施している。

九州大学学生生活・修学相談室は「単位取得数の少ない学生へのアプローチ」において、単位取得数が他の学生に比べ際だって少ないのは何らかの不適応の表れであるとの認識で、手紙を送付する取り組みを行っている。

また、「全学共通教育を通じての一般学生への働きかけ」や、修学のための資料を集めた「ブラウジング・ルーム」を提供し、運営している。

九州大学健康科学センターでは、講義を利用したメンタルヘルス活動として、少人数ワークショップ型コミュニケーション実習を行っている。また受講学生からのレポートについて、KJ法を用いて質的分析を行い、プログラム実施上の工夫に役立てているのは参考になる。一般学生においてもその支援モデルやシステムの開発が急務として取り組んでいる。

慶應義塾大学学生総合センター学生相談室においては恒例の「コラージュとサイコドラマの集い」グループ・ワーク合宿は参加者がなく中止し、ベーシック「エンカウンター・グループ」を2泊3日で行っている。

国際基督教大学カウンセリングセンターは、キャンパスで孤立感、不適応感を持つ学生のためのグループ「Group Hour」を60分間の5セッションで24名の参加者を得ている。「エンカウンター・グループ合宿」は、自分らしさへの試みをテーマに2泊3日の日程で7名の参加者で行っている。「新入生懇談会」「新入生生活調査」も、実施している。カウンセリングセンター主催の「学生の健康を考える会」は教職員対象に月1回行われている。

専修大学学生相談室では、3つの合宿を開催している。「ヒューマン・リレーションズ・ワークショップ」の内容は自己理解のための個人作業プログラムとグループプログラムで構成されている(1泊2日,参加者8名)。「心理劇を学ぶ研修会」(2泊3日,参加者4名)、「エンカウンター・グループ」(3泊4日,参加者4名)。また週1回の「コネクションスペース」の運営、および「ティーアワー」(教員と話す会)など、実践している。

津田塾大学ウェルネスセンターは、メンタルヘルスに関する読書会を20年来実施してきたが、本年度をもって終了している。「就職のための自己分析セミナー」を2日間通い形式で開催している。

主な内容は、第1印象ゲーム、女性の働き方、面接ゲーム、自己紹介発表会で、就職のためのスキルアップを中心としている。

東京学芸大学保健管理センターでは、体験ワークを手段とした「人間関係トレーニング」という合宿形式の授業を行っている。授業「生活環境とストレス」は生活と健康、ストレス問題を扱う内

## 個別相談以外の学生相談活動の最近の動向

容で開講している。

東京工業大学保健管理センターにおいては、「人間関係論/学生生活を語る夏合宿」（1泊2日，参加者15名），「人間関係論ゼミ」というゼミ形式のグループワークを行ったり（月1回，参加者10数名），1年生の必修科目として「健康科学」の講義を実施している。

また，「教職員のための学生サポートガイドブック」を発行している。一般教職員に対して，問題を抱える学生の理解を促したもので，扱った問題の範囲も多岐にわたっているため教職員に真に役に立つ有効な取り組みとなっている。

日本女子大学カウンセリングセンターは，2年前から前期「青年期と自己形成」，後期「自分らしく生きる」という講義名で授業を行っている。

弘前大学保健管理センターでは，「私って何者？」をキャッチフレーズに2泊3日でグループ合宿を開催している。自己表現の時間と，自分をつめる時間を中心にプログラム構成されている。

広島市立大学学生相談室では，「エンカウンター・グループ」（1日）を行い，自分自身をつめる機会をつくるため，また，対人関係がきこない学生に対して小集団での自己開示経験をもつことを目的に，自己紹介，名札づくり，2人一組インタビュー，コラージュ，ティータイムという内容で参加者5名に対して行っている。また，単発のイベントとして，カウンセラーも参加して，試食を含めた4時間の「料理教室」を4名の参加者に対して行うなど，ダイケア的な生活支援策もみられる。

広島大学総合科学部学生相談室では，研究室内で「構成的エンカウンターグループ」を，大学院生に2泊3日で実施している。研究室単位の集団に対して学生相談組織がいかにコミットしていくかという，興味深い試みを行っている（参加者12名）。また，「オープンフライデー」（目的は自己理解，自己確立，対人関係の発展）のグループを毎週90分，年間28回実施（参加者35名）。「土曜友の会」は毎月1回3時間，卒業生や社会人にも開放し，年間12日，参加実数24名延べ76名参加で行われている。「土曜友の会エンカウンターグループ」は年1回3泊4日で，参加者49人で行われている。

福岡教育大学保健管理センターでは，臨床心理学に興味がある学生を集め，2週に1回，「読書会」を行っている。また，教養科目「こころと身体」の健康科学A・Bでは前期後期を通して，「アイデンティティについて考える」，「自分自身を知る」，「コミュニケーションを円滑に行うために」，「アサーショントレーニング」というテーマで講義を行っている。「歩こう会」（毎日昼休み40分程，大学周辺をウォーキング）を開始する（参加者1名）。

武蔵大学学生相談室では，学生が自分自身の自己表現スタイルを把握し他者との関係に活かすために，また，学生がグループに参加し他の学生やスタッフと交流することによって人間関係を広げるきっかけを提供する目的で，「アサーション・トレーニング」90分を年2回実施している（参加者2名）。また，休憩，仲間づくり，相談を迷っている学生，日常的支えの場，悩まない学生という幅広い対象を視野に入れた，「コミュニケーションスペース」の運営，活性化に努めている。また，「いっしょにlunch」では，4月の新学期期間に4日，昼休みに昼食をとにもする取り組みがなされている。また，「ビデオを観よう会」は120分2セッション行われている。また，「年間単位取得数10単位未満の学生および復学・再入学学生への呼びかけ」として，学生相談室のパンフレット，相談を促す書類を郵送するなどの取り組みも見られる。

明治学院大学学生相談センターでは，週1回昼休みに友達作りを目的とした「アクティビティグループ」を行っている。

### 2001年度における活動活動

愛媛大学保健管理センターでは，「学生と社会人との交流合宿」を平成9年から1泊2日で実施している。主な活動内容は，登山，自然観察，史跡めぐり，アウトドアクッキングである。本年度参加者は17名となっている。

九州国際大学学生相談室では，キャンパス・トータル・サポート・プログラム3年目にあたる。UPI検査を施行し，精神的に不安定な状態にあると判断された学生に対し，カウンセリングを行ったり，「心の健康チェックキャンペーン」として，待合室に心理検査コーナーやリラクゼーション教室を設置し，45名の参加者を集める。また，曜日ごとに担当者，テーマを決めたグループ（「心の映画会」参加6名，「レディース・デイ」参加4名，

「茶話会」参加5名,「教職課程グループ」参加4名,「リーダースグループ」参加12名,「読書会」参加5名)を行うなど,活動の幅を拡大している。

九州大学健康科学センター(福盛ら)は,WITH活動として,学生のQOLを高めるために,学生自身が共に学びあう創造の場として保健管理施設を機能させる必要があるとして,活動領域を3つに分ける提案を行い,①Component Relax(運動・趣味を通したリラックス・癒し:具体的には「アロマタイム」や「漫画クラブ」など),②Component Share(体験の共有,相互学習:1981年より続けている「サイコロトリート」(たまり場)の運営と,主にそこを利用している病を抱える学生の「親の会」の運営,③Component Skill スキル獲得を目的としたグループ(アサーショントレーニング,就職のためのスキル・トレーニング,ダイエットグループ,「心理健康学」講義等と位置づけ実践を行っている。

慶應義塾大学学生相談室では,エンカウンターグループを2泊3日,参加者10名と共にやっている。

国際基督教大学カウンセリングセンターでは,エンカウンター・グループ合宿2001<自分らしさへの試み>2泊3日参加者9名を得ている。集団での不適応感のある学生の継続型グループ「Group Hour 2001」では1セッション60分で,春学期と冬学期は5セッションを1クール,秋学期は7セッションを1クールとし,参加者春学期7名,秋学期4名,冬学期3名を得ている。個別相談との併用の形であり,個別相談の体験を踏まえつつ,より対人的な場への挑戦として,グループを位置づけ,自己理解や相互理解を深める学生の支援が行われている。また,対象者を摂食障害に限定した自助グループ「Eating Disorders Group」60分7セッションのグループも実施している。「新入生懇話会」および「Open House」,「新入生生活調査」も引き続き行っている。

国際基督教大学高等臨床心理学研究所(小谷ら)は,実験グループではあるが,青年期アイデンティティグループを構成し,非臨床群つまり,一般学生の攻撃性の取り扱いや,青年期人格発達危機に対する予防的集団精神療法として,「青年期アイデンティティグループ」を開発・実践し,技法構成を積み重ねている(小谷他,ジェイムス他2004,

西村他2004,ジェイムス他2005)。本年度は,「青年期アイデンティティグループ」のメンバー5人に対し,3日間9セッションを施行している。(主セッション55分,休憩5分後,フィードバックセッション30分)。

専修大学学生相談室では,3つの合宿を開催している。「ヒューマン・リレーションズ・ワークショップ」(2日通い形式,参加者5名),「心理劇を学ぶ研修会」(1泊2日,参加者5名),「エンカウンター・グループ」(2泊3日,参加9名)である。また「ティーアワー」では,先生と気軽に話そうというテーマで,50分12回12人の教員と語る場を設定している。また,毎週1回の,「コネクション・スペース」の運営にも力を注いでいる。

東海学園大学保健室では,「大学生のサイコロトリートスペース」として,空き時間に学生たちがどこを居場所としているのか,居場所的空間にはどのような要素があるのかについて調査し報告している。

対象者の73%が学内に友人と出会える場を持ち,57%がくつろげる場を,35%前後の学生が居場所を求めていることがわかり,また,そこには安息の場,また,安全に自己表現できる(自己認知・成長確認)の場を,また,教職員との関わりを望んでいることが明らかになっている。

東京学芸大学保健管理センターでは,「アルカディア」と呼ぶ居場所(フリースペース)の運営を行ったり,また,学生主催自主ゼミ「精神保健ゼミ」(隔週1回)や,心理学,精神医学,社会学,文化人類学などの見地から幅広いテーマで自主ゼミ「木曜会」を行っている。「非行犯罪心理研究会」(自主ゼミ)も開催している。また,関西大学,桜美林大学を中心とした3大学合同合宿を年1回開催している。

東京工業大学保健管理センターでは,「人間関係論/学生生活を語る」夏合宿1泊2日を8名の参加者と行っている。その内容は,ソーシャルスキルアップや心理成長を促すプログラムで構成され,身体ほぐし,描画による自己点検と,他者との交流を活性化させる内容構成である。

また,個別相談を受けている学生に対して,対人関係を広げていく1つのステップとするために,「人間関係論」をテーマにゼミ形式のワークショップを行っている。「人間関係論」をはじめ講義

## 個別相談以外の学生相談活動の最近の動向

も担当している。「カウンセリング懇談会」は、年2回、教職員約80名を対象に開催している。

東京大学学生相談所では、「夏の短期グループセミナー」を2日間通い形式で行い（参加者14名）、進路・修学や対人関係の教育的なプログラムとして位置づけている。また、アサーションセミナーを2日隔年で開講し、25名の参加者と共に行っている。

名古屋大学学生相談総合センターでは、「1・2年次生への適応援助体制についての連絡会」を年1回、特に新入生への各学部への適応促進の工夫について、現状と今後のあり方を検討する目的で開催している。

日本女子大学カウンセリングセンターは、自己理解の促進と心の発達援助、学生相談活動の理解を目標として、前期、後期を通して授業を行っている。

また、グループ合宿として、「アサーション・トレーニング」（1泊2日、参加者23名）、「エンカウンター・グループ」（2泊3日、参加者7名）、さらに、「就職のための自己分析セミナー」の定期的開催や、「リラクゼーションとアロマセラピー」、「性格診断テスト」など、単発の月例グループも開催している。

日本大学学生相談室では、2泊3日で「コミュニケーションセミナー」を実施し対人コミュニケーションのスキル向上を目指して、構成的なグループワークを46名の参加者と共に行っている。またUPI調査を実施し、5140名の学生の結果を個人通知し個人の気づきを促している。

広島大学総合科学部学生相談室では、ピアサポートルームを4月から設置し、ピアサポーターの育成、支援、ケアに取り組んでいる。

また、学生の自己理解、自己確立や対人関係発展ため、引き続き「オープンフライデー」を毎週1回90分間実施し、年間参加者の実数は76名を数えている。「土曜友の会」は、月1回3時間、在学生、卒業生、社会人にも門戸を広げて開催し、実数21名、延べ参加者数83名、平均7名のグループとなっている。「土曜友の会エンカウンターグループ」は夏休み期間中3泊4日で10名の参加者と行っている。

福岡教育大学保健管理センターでは、カウンセリングを受けるニーズはないものの、心の問題に興味があるという学生4名を対象に、隔週で「読書会」を継続している。授業「こころと体の健康科学B」は後期開講している。

武蔵大学学生相談室では、新入生向けの「心のオリエンテーション」を年3回開催、「ストレスと上手につきあう方法」を年2回いずれもグループワーク形式で行っている。コミュニケーションスペースの運営（利用者数1596名）も引き続き行っている。

桃山学院大学学生相談室は、「心理教育自己表現セミナー」で、アサーショントレーニング入門（90分4回セッション、参加者4名）を実施している。また、「自律訓練法入門セミナー」（5～10名参加）を年2回実施している。また、月2回昼休み50分間に、「ティアーワー（雑談会）」というオープングループを実施したり、「性格検査週間」、「職業興味検査週間」も設けている。また「フリースペース」も提供している。

山口大学学生相談所では、1泊2日の日程で参加者10名にカラー・ワークやボイス・ワークを内容とした「出会い合宿」を行っている。

### 2002年度における活動

岩手大学保健管理センターでは、「健康クラブ」の中で、週2回90分の「太極拳教室」を2001年より学生・職員向けに健康教育・増進活動の一環として63回（延べ参加者323名）開催し、本年度は新たに詩吟教室も開講している。

愛媛大学保健管理センターでは、「学生と社会人との交流合宿」を本年度も1泊2日で実施している。主な活動内容は、登山、自然観察、史跡めぐり、アウトドアクッキングである。本年度の参加者は17名である。

岡山県立大学短期大学部（山本）は週1回90分のゼミ、12回の中で、7名の学生に対し「エンカウンター・グループ」（ひとりじゃないよ。みんなで話そう会）を行い、その成果を報告している。

香川大学保健管理センターでは、「エンカウンター・グループ」（自分とつきあう、自然とつきあう、人とつきあう）を行い8名の参加者を得ている。

九州国際大学学生相談室では、新しい試みとして「キャリアについて考えるワークショップ」を開催している。

九州大学学生生活・修学相談室では、福留が予防的アプローチとして、授業の中で描画法を施行し、施行後の変化についても調査している。また、「各学部の修学支援の取り組みと課題についてのシンポジウム」を開催したり、2000年に立ち上げた「女子学生のグループ」(週1回90分1クール8セッション)を継続実施している。また、「学び方を学ぶワークショップ」の開催や、「単位取得数の少ない学生へのアプローチ」として年2回手紙を送付する取り組みを行っている。全学教育を通じての一般学生への働きかけにも力を注ぎ、教養科目「人間関係の科学」2コマ、「社会生活における対人関係」1コマ、少人数ゼミナール「こころの世界を考える」等を実施し受講生の合計は1123名を数えている。また、「ブラウジング・ルーム」の運営も引き続き行っている。

慶應義塾大学学生総合センター学生相談室では、「グループアワー『心』を訪ねてぶらり旅 カウンセラーからのメッセージ」を90分セッションで9回実施し、延べ参加者60名となっている。

恵泉女学園大学カウンセリングルームでは、従来からのUPIテストの実施と、スクリーニング面接を引き続き行っている。

神戸女学院大学学生相談室は、女子学生の進路選択の援助の目的で、3年生を対象に「キャリア・グループ」を開催している。内容は、VIP職業興味検査、自己紹介、ファーストインプレッションの話し合い、グループワーク、先輩からのアドバイス等を盛り込み、1日のセッションを5回開いている。参加者は75名であり、効果の検証も行っている。

駒沢大学学生相談室では、2泊3日の「第10回エンカウンター・グループ」(11名参加)を開催している。

専修大学学生相談室では、先生と気軽に話す「ティーアワー」を13回企画し、延べ108名参加している。また、「コミュニケーションワーク」2日間のプログラムへの20名参加をはじめ、「アサーション」(自己表現トレーニング)の2日間のワークに

12名参加、「エンカウンター・グループ」2泊3日には10名参加というように、3つのワークショップを開催している。さらに「自分色発見」(パーソナルカラーを見つける)セミナーでは、自分をみつめることからパーソナルカラーを見つける流れで内容構成され、年1回2時間22名の参加を得て実施されている。

東京工業大学保健管理センターでは、「人間関係論/学生生活を語る」夏合宿1泊2日を12名の参加者で行っている。その内容は、ソーシャルスキルアップや心理成長を促すプログラムで構成され、身体ほぐし、描画による自己点検と、他者との交流を活性化させる構成である。また、個人相談を受けている学生に対して、対人関係を広げていく際の1つのステップとするために、「人間関係論」をテーマにゼミ形式のワークショップを行っている。また「人間関係論」をはじめ講義も行っている。「カウンセリング懇談会」は、年2回、教職員約80名を対象に開催している。

東京学芸大学保健管理センターでは、「アルカディア」と呼ぶ居場所(フリースペース)の運営を行っている。また、学生主催自主ゼミ「精神保健ゼミ」(隔週1回)や、心理学、精神医学、社会学、文化人類学などの見地から幅広いテーマで検討しあう、自主ゼミ「木曜会」も行っている。また、「非行犯罪心理研究会」(自主ゼミ)も継続している。関西大学、桜美林大学を中心とした3大学合同合宿を年2回開催し、学生が自主的に企画運営している。詳細については記載されていない。

名古屋大学学生相談総合センターでは、予防的な取り組みの一つとして、「1・2年次生への適応援助体制についての連絡会」を年1回2時間行っている。

日本女子大学(青木)は、心理学の授業中に文章完成法を用い、自己理解と他者理解を促進するためのかわりを行っている。

日本女子大学カウンセリングセンターでは、グループ合宿「アサーションセミナー+就職のための自己分析」を1泊2日で行い、参加者9名を得ている。また、「就職のための自己分析セミナー」を、昼休みに7回開催し、各種グループ「映画クレヨンしんちゃん鑑賞会」「星と波テスト」「一人暮らしを考える」「コラージュセミナー」など、さ

## 個別相談以外の学生相談活動の最近の動向

さまざまな単発のイベント的グループを企画している。

日本大学学生相談室においては、対人コミュニケーションのスキル向上を目指し、2泊3日で「コミュニケーションセミナー」という構成的グループワークを60名の参加者で行っている。また、日本大学では、学部別学生相談体制を敷き、学部単位で担当カウンセラーを割り当てるという独特な取り組みが行われている。

広島大学総合科学部学生相談室では、ピア・サポート・ルームへの取り組みが行われている。

福岡教育大学保健管理センターでは、「イメージ療法ワークショップ」(月1回90分)を導入している。また、「歩こう会」を継続している。こころの病を抱え修学中の学生は、運動不足の人も多く、また、学内に恒常的なかわりを維持していくことが難しいことから、毎日昼休みに40分程度、学内や大学周辺のウォーキングを行い関わりを持ち続けている。参加者は継続者1名と、参加者数名。授業「こころと身体健康科学A・B」は前期・後期通して開講している。

福岡大学ヒューマンディベロップメントセンターでは、「なりたい自分探しセミナー」として、キャリアコラージュによる自己表現や、VPI「職業興味検査」による職業と性格傾向分析等を、4時間で3日間実施し、6名が参加している。「なりたい自分探しセミナー：後続グループ、木曜会」は、サポートグループとして行っており、昼休みを利用して6回、延べ25人が参加している。

武蔵大学学生相談室では、学生OBによる「大学生活お助け講座」を2日間行い、履修登録のポイントや、授業の受け方&居場所作りのポイントをテーマに開催している。また、「コミュニケーションスペース」も開いている。

明海大学学生相談室では、学生支援室とともに、学生そのものを重要な資源として「ピアサポートセミナー」を実施し、その中で、サポーターである学生の成長という副次的な効果が報告されている。

山形大学保健管理センターでは、「映画を活用したグループセミナー」を試み、年間27回203名参加

している。プログラムは映画鑑賞、解説、座談会、感想文の提出という流れになっている。感想文には、他者理解や、自己理解の向上に関する内容が多数を占めたが、オープングループのフリーメンバーでは、感想意見の表明にとどまり、相互のコミュニケーション段階まで発展しにくい点が認められている。

山口大学学生相談所では、「出会い合宿」を開催し、学生14名対象に、1泊2日で構成的エンカウンター・グループを行っている。

横浜国立大学保健管理センターでは、「学生支援・ソリューションプログラム」を用いた合宿が2泊3日で行われ、約20名の学生が参加している。

### 2003年度における活動

岩手大学保健管理センターでは、健康クラブの中で、「太極拳教室」(週2回2時間半延べ495名参加)、「詩吟教室」(不定期開催学生1名職員1名の参加)を行っている。「第13回自己理解・他者理解のためのグループ体験合宿」は1泊2日、参加者5名である。構成的エンカウンター・グループによるエクササイズの設定、参加を通して自己開示、他者理解を深めていくものとなっている。

岡山県立大学短期大学部(山本)は、対人援助の授業の履修生48名に対し、グループ形式の自己解決志向型発達カウンセリングアプローチ(インスー・キム・バーグのブリーフ・セラピーをベースに、Iveyの発達心理療法取り入れた理論構成のアプローチ)を60～90分、3～4回実施し、報告している。

追手門学院大学では、新1年生のための適応支援を目的に春学期に「新人生演習」が導入されている。

香川大学(宮脇)は、「簿記・会計ワークショップ」を週1回90分実施している。参加学生を募り、一定の約束事(時間・課題等)の中で、学生に自分を主張でき、人と触れ合う場を提供している。約束事を守りながら、小さな成功体験を重ねていくことで、自分への信頼と自信、他社との信頼関係の築き方を覚え、弧から個へ、移行し、次第に、個と集団のバランス感覚を身につけていく事をねらいとしている。

北里大学保健管理センター（森平）は、調整的音楽療法（RMT）グループを、週 2 回50分のセッション（音楽聴取10～20分、教示・分かち合い30～40分）を24回にわたって4名の参加者に行い、主に緊張感の調整に効果を認め、その報告を2003年に行っている。この活動は数年来行っているとの記載がある。

九州大学学生生活・修学相談室では、修学・進路・就職などの情報提供、学生生活に関するアドバイスを高年次の学生が低年次の学生に行う、「ピア・アドバイス活動」の運営を開始している。また、「1・2年生を対象としたグループ」は週1回90分を12回行っている。参加者は0～5名程度、安心して人と交流できる場を提供することを目標としている。また「学び方を学ぶワークショップ」では、90分3回シリーズで行われ、動機づけのある学び、効果的な学び、積極的な学びをテーマとして行われ、1年生4名が参加している。「単位取得数の少ない学生へのアプローチ」として、5月12月の年に2回、個別に手紙を出す形式で関わっている。1年間268通送付し、毎年、この手紙を契機とし、自主来談する学生も一定数あり、意義のある取り組みとなっている。全学教育を通じての一般学生への働きかけとして、前期に3コマ、個別教養科目「人間関係の科学」、高年次教養科目「社会生活における対人関係」、後期に4コマ、個別教養科目「人間関係の科学」、少人数ゼミ「こころの世界を考える」等を実施し、総計935名が受講している。学生生活のさまざまな領域の情報閲覧が可能な「ブラウジング・ルーム」の運営管理も行っている。

九州大学健康科学センター（峰松ら）は、「Family Support Group」（病を抱える学生の親の会）の運営方法や、内容、効果を報告し、保護者をいかに支援するかという関係者支援活動にも力を注いでいる。

国際基督教大学カウンセリングセンターでは、本年度は「エンカウンター・グループ」は実施できず、集団での不適応感のある学生の継続型グループ「Group Hour」は秋学期60分5回延べ18名の参加者で行っている。「新入生懇話会」（11名参加）および、「Open House」、「新入生生活調査」は引き続き行っている。初めて「自己理解のためのワークショップーMBTIを利用して」を導入している（2回開催延べ11名参加）。また、学生と教

職員の相互交流の場を年に2回設定している。

駒澤大学学生相談室では、「エンカウンター・グループ」を2泊3日で行い、参加者11名を得ている。

専修大学学生相談室では、先生と気軽に話す「ティーアワー」を5人の教員を招き5回企画し、延べ77人参加している。また、3つのワークショップ「コミュニケーションの仕方を学ぶ」（2日間のプログラム17名参加）をはじめ、「よりよき自己表現を学ぶ」（アサーション・トレーニングの2日間のワーク21名参加）、「エンカウンター・グループ」（2泊3日、10名参加）がある。「自分色発見！パーソナルカラーを見つかる」は、自分をみつめることを目的として開催され、年1回ではあるが、120分31名の参加者で行っている。

東京学芸大学保健管理センターでは、「アルカディア」と呼ぶ居場所（フリースペース）の運営を行っている。また、学生主催自主ゼミ「精神保健ゼミ」（隔週1回）や、心理学、精神医学、社会学、文化人類学などの見地から幅広いテーマを扱う「木曜会」を行っている。また、関西大学、桜美林大学を中心とした「3大学合同合宿」を年3回開催している。いずれも学生が企画運営している。

東京工業大学保健管理センターでは、「人間関係論/学生生活を語る」夏合宿を2泊3日8名の参加者で行っている。「人間関係論ゼミ」はゼミ形式のグループワークで1～2ヶ月に1回実施し、毎回数名から10名程度参加している。講義として、「人間関係論」を前期に受講生数10名に行っている。また後期には「健康科学」を保健体育の先生方に加わり、カウンセラーが1回担当している。

東京都立大学学生相談室では、心の健康増進教育活動の一環として、「講義」、「作業」、「体験学習ー感受性訓練」、「エンカウンター・グループ合宿」、「サイコドラマ」、「ロールプレイ」を行い、「ピアカウンセラー、パラカウンセラーの養成」、「能力開発カウンセリング（自己理解と他者理解のための集中的合宿、グループ・カウンセリング、課題グループ、基本的な学習技能の訓練）など、行われているようである。対象者や、回数、目的などは記載がなされていない。

東洋大学学生相談室は、適応が困難な学生への



## 個別相談以外の学生相談活動の最近の動向

多様な支援の一環として、宿泊型面接外支援「夏のコミュニケーショングループ」と併用していく試みを検討し、学内の多分野の協働や人的ネットワークづくりにも波及する、学生相談活動の有効な方策となりうることを報告している。

また、「心理テスト週間」を3回企画し(206名参加)、また「ストレスチェック週間」も3回企画、実施(162名参加)している。さらに、アサーションやフォーカシングを内容とした、「対人関係の問題を1年通して長期間で取り組むグループ」(年間21回延べ291名参加)、「就職の問題を短期間で取り組むグループ」(8回延べ35名参加)、アートセラピーを中心とした「性格と生活の問題を短期間で取り組む体験グループ」(5回延べ50名参加)を行う一方、エンカウンター・グループを土台にした、「夏のコミュニケーショングループ」(2泊3日、35名)も開催している。その中では、フリーセッション、野外料理、アートセラピー、パーティセッションなどを催している。

名古屋大学学生相談総合センターでは、予防的な取り組みの一つとして、「1・2年次生への適応援助体制についての連絡会」を年1回2時間行っている。

日本大学コミュニケーションセンターでは、「学生相談研修会」として、教職員対象の3泊4日の研修会を年2回主催している。教職員延べ参加者73名に対し、相談実習11セッションと、講義で構成されている。また、学生向けには、2泊3日の「コミュニケーションセミナー」を行い、76名の参加者を得ている。他者との共同作業や自己表現を体験し、コミュニケーションの円滑化を図り、卒業後の積極性を養う目的で行われている。

広島修道大学学生相談室では、集団教育プログラムとしての「エンカウンター・グループ」を理論的・技術的な基盤としながら、「談話室」の運営や、セミナー合宿、対人関係研修会、授業を行っている。

福岡教育大学保健管理センターでは、「こころと身体健康科学A・B」は前期・後期開講している。「イメージ療法ワークショップ」は月1回80分実施している。

福岡大学ヒューマンディベロップメントセンターでは、海外留学予定学生の11名に90分で「留学

生のためのメンタルサポートセミナー」を行っている。また、「なりたい自分探しセミナー」(1回5時間6名参加)、「コミュニケーションセミナー」(5回100分枠、参加者延べ35名)、「心と身体のセミナー」(4回100分枠、延べ参加者20名)、自由参加のオープングループ形式、新入生歓迎企画「ランチタイムを一緒に」(昼休み4回、延べ参加者21名)をそれぞれ開催している。「サポートグループ」はクローズドグループとして行われ、2回延べ参加者12名である。さまざまなグループを運営し、充実させている。

武蔵大学学生相談室では、以下の6つに分類された広い対象者を抱えていけるような「コミュニケーション・スペース」の運営を心がけている。その分類は次のとおりである。①大学への適応に困難をかんじている学生の休憩場所②仲間づくりの場所③面接を受けるかどうか迷う学生に機会を与える④行事に参加した学生の交流の場⑤面接を受けている学生の日常的な支えの場⑥悩めない悩みを言語化できない学生に対応する場。本年度利用者数4116名と利用者数は増している。

また、前年度取得単位10単位未満の学生に対するパンフレット送付を1995年から行っている。学生の状況、心情、理由、個人情報保護の点から、見直しを行い、対象者を厳選し、学生宛にあえて簡素な文面で送付するという取り組み内容の変更を行った上で、86名に送付し、そのうち、1名の学生の自主来談を得ている。

山梨英和大学カウンセリングセンターでは、「新入生生活調査」による面接希望者の発掘、「ヨガ講座」、「箱庭体験」、「お好み焼きパーティー」、「丹田呼吸法講習会」など各種イベントや単発のグループカウンセリングを行っている。また、新入生必修の「全学教養演習」のうち、人間関係、自己表現ワークを、カウンセラーが1時間授業として行っている。

横浜国立大学保健管理センターは、ソリューションプログラムを、学生相談に取り入れ、グループ合宿、就職面接トレーニングにも活かしていく試みを発表している。

和歌山大学保健管理センターでは、「引きこもり回復支援プロジェクト」と称し、引きこもりや不登校を支援する学生の自助グループを立ち上げている。全引きこもり学生の43%に関与し、そのう

ちの85%が卒業し、社会参加可能な状態までに回復したと報告している。

### 2004年度における活動

東京都立大学学生相談室では、心の健康増進教育活動の一環として、「講義」、「作業」、「体験学習—感受性訓練」、「エンカウンター・グループ合宿」、「サイコドラマ」、「ロールプレイ」を行い、「ピアカウンセラー、パラカウンセラーの養成」、「能力開発カウンセリング」(自己理解と他者理解のための集中的合宿、グループ・カウンセリング、課題グループ、基本的な学習技能の訓練)など、行われている。対象者や、回数、目的などの記載はない。

広島大学保健管理センターは、学生の自殺のプリベンション、インターベンションだけでなく、ポストベンションに関しても、学内に及ぼす影響の大きさから、関わり方の構築が必要として、そのための学生支援ネットワーク、自殺予防プログラムの計画実施など、具体的方策を研究し、取り組みに力を注いでいる。

名古屋大学学生相談総合センターでは、予防的な取り組みの一つとして、教職員対象に「1・2年次生への適応援助体制についての連絡会」を年1回2時間行い意見交換を行っている。

福岡教育大学保健管理センターでは、「こころと身体 の健康科学A・B」は前期・後期開講している。「イメージ療法ワークショップ」は月1回80分実施している。

2004年に行われた活動報告はまだ十分に発表されていない現状がある。

### 3. まとめと展望

#### (1) グループアプローチ

国公立大学においては、1970年代から合宿形式の非構成的エンカウンター・グループを取り入れ、実施している大学が少なくない。そして、その多くの実績を踏まえた、研究成果が報告されている。この5年間においても、合宿形式のエンカウンター・グループは多くの大学で実施されていることがわかった。

しかしながら、実施している大学の実態として、宿泊日数の短縮化、参加学生数の減少傾向を認め、

なかには、継続を断念せざるを得ないグループも出てきている。つまり、他者とのふれあいや自分探しを目的に提供する枠組みに、自主的に参加する学生は、年々減少の一途をたどっていることが本稿をまとめるにあたり明らかになった。

人とともにいて傷つくことに対する極端な不安感から、人と関わることを恐れ、人との深いレベルでのふれあいを回避して、孤立していく傾向は、病や問題を抱えた学生に限らず、一般学生においても顕著に認められる。

大学から引きこもる学生にどうアプローチしていくのかという課題と同様に、学生という受け身の立場での通学はできても、社会人として積極性や社会性を発揮しながら、人と交流することには大きな隔たりが存在する学生は多い。大学を卒業しても社会参加の道を踏み出せず、就職することができない学生群に対する課題は、大学における看過できない悩ましい難題となっている。

そこには、意識レベルにはニーズのない、多くの一般学生の潜在的なニーズをどう掘り起こしていくのかという矛盾した問題が浮かび上がる。

個別相談と比較した場合、グループ、授業という複数の対象者に対するアプローチは、予防的・治療的視点からみても効率がよく、エンカウンター・グループだけでなく、バラエティに富んだ技法理論を取り込んだグループ活動が、一層、普及、展開していく方向にあるのではないかと予想していた。しかし、現実には、限られた少数の大学の先進的な取り組みがあるだけで、プログラムの検討、開発の急務が提言されるに留まっている。

また、現在行われているグループアプローチについては、居場所的空間の運営、対象限定の治療的グループ、体験型成長促進グループ、イベント形式出会いサポートグループ、心理教育的グループ(授業を含む)に分類可能であることがわかった。各大学において、この5層のプログラムが、大学の特色に見合った形で提供され、多様な学生の心理的ニーズの受け皿となることが、学生相談活動の理想的あり方と思われる。

しかしながら、学生相談の現場においては、個別相談の増加、重症化傾向による、学生への対応に追われ、現実的に数層のグループ活動を提供できる程の時間的、人力的余裕のない現状があると思われる。

つまり、学生相談におけるグループアプローチの明確な方向性は定まらないままであり、多くの

大学では、学生の多様な相談に有機的に対応できる新たなシステムのあり方を、模索している段階にあるといえる。

## (2) その他の活動

その他の活動としては、大きく関係者支援や、学内連携がある。一般教員の研修、ピアサポート学生の研修などを企画している大学も少しずつ増加してきている。すなわち、学内の貴重な人的資源である学生や教職員とともに、大学全体でサポート体制を敷くための研修機関としての役割を、学生相談部門が担っていくという1つの明確な方向性があることがわかった。しかし、教員には、学術的知識を学生に与え指導していく役割と立場がある。カウンセリング的な対応を行う教員が増えることが、学生の教育、成長に必ずしも必要とも言えないであろう。車の両輪のように、学生を時に厳しく現実的に指導していく教育の専門家と学生相談従事者の協働によって、学生の成長・発達を押し進める効果が薄まる意味において疑問が残る。教職員や関係者間の連携、連絡会の推進が現実的で妥当な取り組みといえるのではないかと思われる。

大多数の一般学生にとっても有益な学生相談活動の展開に向けて、積極的に心の成長・促進活動を仕掛けていく“動的”側面は今後益々重要視されるであろう。その一方で、学生相談の中心的な業務として従来から行われている個別相談活動には、一人一人の心の状態に応じた、学生の心の成長・発達の支援、主体性の獲得や自己確立の援助という学生相談の原点ともいえる“止まる(待ちの)”側面が極めて重要であり、この“動と止”のバランス感覚の維持が、学生相談従事者に求められているといえる。

## 4. 課題

今回、学生相談の動向をまとめるにあたり、文献を通して多くの先達の地道な実践に触れる機会となり、筆者にとっては、日々営む学生相談活動の見直し、仕切りなおしのヒントが得られる貴重な体験となった。また、筆者の心の中を占めていた、「これからの学生相談の輪郭、見通し」の不明確さを払拭したいという必要性に迫られたものであったことに改めて気づくことになった。

しかし、本稿を終えるにあたっては、いくつかの課題が残る。まず、本稿では、すべての大学を

対象としたものではなく、対象とならなかった大学を含め、調査研究が必要であることはいうまでもない。また、文章化にならず、発表にならない地道な実践、取り組みがあることも予想される。

そのような意味で、本稿においては、情報の入手方法、分類の仕方の適切性も含め検討課題が残る。

さらに、活動の有無を指標にしたため、活動の効果、中身について、質的な側面については今回検討していない。この点も今後の課題である。

## 参考・引用文献

### <学会誌・研究発表論文集>

- 青木万里 2002 心理学の授業に用いた文章完成法の試みー自己理解と他者理解を促進するためー. 学生相談研究, 第23巻, 第1号, 73-86.
- 安住伸子 足立由美 2004 女子大生の進路選択決定援助に関する研究ー進路選択に対する自己効力尺度を用いてー. 学生相談研究, 第25巻, 第1号, 44-55.
- 石田妙美 岡部知都子 大澤功 佐藤祐造 2001 大学生のサイコロトリートスペース(居場所). CAMPUS HEALTH, 37(1), 234-237.
- 井利由利 植木陽子 酒井渉 須賀芳枝 関真利子 中村家子 福谷徹 松平友見 2003 宿泊型面接室外支援の個人面接との併用の試みー課外教育プログラム「夏のコミュニケーショングループ」. 学生相談研究, 第24巻, 第1号, 31-40.
- 内野悌司 2003 広島大学ピア・サポート・ルームの初年度の活動に関する考察. 学生相談研究, 第23巻, 第3号, 233-242.
- 内野悌司 磯部典子 鈴木康之 藤巴正和 岡本百合 酒井祥子 神野寿代 2004 自殺(未遂)のポストベンションに関する検討. CAMPUS HEALTH, 41(1), 204.
- 内野悌司 児玉憲一 大下晶子 児玉厚子 磯部典子 2002 広島大学ピア・サポート・ルームに関する心理学的研究(4)ーProcess-Based Evaluationによるー考察ー. CAMPUS HEALTH, 38(2), 510-513.
- 宇留田麗 2003 異職種間の協働による学生相談活動を成立させる方略の探索. 学生相談研究, 第24巻, 第2号, 158-171.
- 宇留田麗 2005 大学教員と臨床心理士のコラボレーションによる大学生の修学支援. 心理臨床学研究, 第22番, 第6号, 616-627.

- 江口昌克 近江彰 鈴木洋州 山田多啓男 木ノ瀬朋子 西村香 安齋順子 2004 キャンパスヘルスの推進とコミュニティ・アプローチ～学生支援室と学生相談室の連携から～. CAMPUS HEALTH, 41(1), 192.
- 太田祐一 2003 学生相談に関する近年の研究動向－2001年度の文献レビュー－. 学生相談研究, 第23巻, 第3号, 295－312.
- 小谷英文 中村有希 秋山朋子 橋本和典 2001 青年期アイデンティティグループ－性愛性と攻撃性の分化統合を中核作業とする技法の構成－. 集団精神療法, Vol.17, No.1, 2001.
- 小林孝雄 2004 学生相談に関する近年の研究動向－2002年度の文献レビュー－. 学生相談研究, 第24巻, 第3号, 305－315.
- 齋藤憲司 2002 学生相談－最近の動向 1999～2001－. 学生相談研究, 第23巻, 第1号, 105－114.
- 佐々木大輔 2005 学生のメンタルヘルスと支援方策. 弘前大学保健管理概要, 第26号, 5－10.
- 佐藤曉美 2002 ケースにならないケースへの対応－常勤インターカーの役割－. 学生相談研究, 第23巻, 第1号, 10－20.
- ジェイムス朋子 橋本和典 2005 女性の「青年期アイデンティティグループ」における男根性覇気の内在化. 集団精神療法, Vol.20, No.2, 2004, 78－82.
- ジェイムス朋子 苫米地憲昭 2005 心理教育プログラムとしての「青年期アイデンティティ・グループ」の検討. 心理臨床学会発表会論文集, 168.
- 高野明 宇留田麗 2004 学生相談活動に対する援助要請のしやすさについての具体的検討－援助要請に関する利益とコストの認知との関連から－. 学生相談研究, 第25巻, 第1号, 56－68.
- 高橋寛子 2003 学生相談における“つなぐ場”としての役割－対人関係に障害をもつ学生とのかかわりから－. 学生相談研究, 第23巻, 第3号, 253－263.
- 田中健夫 2003 イギリスの学生相談の動向－1999～2002年の文献レビュー－. 学生相談研究, 第24巻, 第2号, 181－194.
- 田名場美雪 佐々木大輔 2000 大学におけるメンタルヘルスへの最近の取り組みと課題. CAMPUS HEALTH, 37(1), 344－347.
- 手塚千鶴子 2003 学生相談室の役割と課題について考える－学生相談の「教育モデル」の立場から「連携」を中心に－. 学生相談室紀要, 第33号, 28－43.
- 西川正行 2003 2002年度グループ・ワーク報告. 学生相談室紀要, 第33号, 108－116.
- 西村馨 石川淳子 2005 青年期女性のアイデンティティグループ－孤立から自己表現の安全空間へ－. 集団精神療法, Vol.20, No.2, 2004, 83－87.
- 早坂浩志 2003 2002年度の学生相談界の動向. 学生相談研究, 第24巻, 第1号, 66－74.
- 福盛英明 峰松修 馬場園明 一宮厚 2003 講義を利用したメンタルヘルス活動－少人数ワークショップ型コミュニケーション実習の試み. 九州地区大学保健管理研究協議会報告書, 59－62.
- 堀之内高久 2004 学生支援・ソリューションプログラム (SSP)－トラウマ解消ワークから就職面接トレーニング, 本の企画まで－. CAMPUS HEALTH, 41(1), 198.
- 峰松修 福盛英明 一宮厚 明石久美子 学生相談における「関係者支援」の試み(1) Family Support Group: 保護者をいかに支援するか. CAMPUS HEALTH, 40(1), 344－345.
- 森平直子 2003 学生相談における調整的音楽療法の活用 人前での緊張のある男子学生の事例. 心理臨床学研究, 第21巻, 第5号, 520－531.
- 山下京子 2004 大学におけるキャンパス・サポーター・システムの導入に関する実践的研究. 学生相談研究, 第25巻, 第1号, 21－31.
- 山本真利子 2004 発達心理療法的観点によるエンカウンター・グループの発達過程. 学生相談研究, 第23巻, 第1号, 156－165.
- 山本真利子 2003 授業における自己解決志向型発達カウンセリングアプローチの試み. 学生相談研究, 第24巻, 第1号, 52－65.
- 横田和子 上野修一 村上和恵 田中順子 宮城満子 余吾ユカリ 久保泰敏 片山佳子 佐伯修一 山内寿恵 2002 適応困難学生に対する学生・社会人交流合宿の実施. CAMPUS HEALTH, 38(2), 521－524.
- 吉武清實 2004 2003年度の学生相談界の動向. 学生相談研究, 第25巻, 第1号, 69－81.

#### <各大学の報告書・紀要等>

- 岩手大学保健管理センター編 2003 岩手大学保健管理センター紀要, 第30号.
- 岩手大学保健管理センター編 2004 岩手大学保健管理センター紀要, 第31号.
- 大阪教育大学保健管理センター編 2000 平成12

## 個別相談以外の学生相談活動の最近の動向

- 年度 エンカウンター・グループ報告書.
- 香川大学保健管理センター編 2002 香川大学保健管理センター紀要, 第17号 (平成12年度).
- 香川大学保健管理センター編 2003 香川大学保健管理センター紀要, 第19号 (平成14年度版).
- 九州国際大学 保健室・学生相談室編 2001 年報2000.
- 九州国際大学 保健室・学生相談室編 2003 年報2001.
- 九州大学学生生活・修学相談室編2000 学生相談九州大学学生生活・修学相談室紀要, 第2号, 2000.
- 九州大学学生生活・修学相談室編2003 学生相談九州大学学生生活・修学相談室紀要, 第5号, 2003.
- 九州大学学生生活・修学相談室編2004 学生相談九州大学学生生活・修学相談室紀要, 第6号, 2004.
- 京都大学カウンセリングセンター編 2002 京都大学カウンセリングセンター紀要, 第31号.
- 慶應義塾大学学生総合センター 学生相談室編 2001 学生相談室紀要, 第31号.
- 慶應義塾大学学生総合センター 学生相談室編 2002 学生相談室紀要, 第32号.
- 恵泉女学園大学カウンセリングルーム編 2004 恵泉女学園大学 カウンセリングルーム報告書, 2002年・2003年合併号.
- 国際基督教大学カウンセリングセンター編 2000 国際基督教大学 カウンセリングセンター活動報告, 第11号.
- 国際基督教大学カウンセリングセンター編 2001 国際基督教大学 カウンセリングセンター活動報告, 第12号.
- 国際基督教大学カウンセリングセンター編 2002 国際基督教大学 カウンセリングセンター活動報告, 第13号.
- 国際基督教大学カウンセリングセンター編 2003 国際基督教大学 カウンセリングセンター活動報告, 第14号.
- 国際基督教大学カウンセリングセンター編 2004 国際基督教大学 カウンセリングセンター活動報告, 第15号.
- 駒澤大学学生部学生相談室編 2002 学生相談室年報, 第12号, 2002.
- 駒澤大学学生部学生相談室編 2003 学生相談室年報, 第13号, 2003.
- 全国大学保健管理協会九州地方部会編 2001 第31回九州地区大学保健管理研究協議会・等 報告書.
- 全国学生相談研究会議編2003 第36回全国学生相談研究会議報告書 (平成14年度厚生補導特別企画・博多シンポジウム).
- 専修大学学生相談室編 2000 学生相談室報告書, 第14号.
- 専修大学学生相談室編 2002 学生相談室報告書, 第15号.
- 専修大学学生相談室編 2003 学生相談室報告書, 第16号.
- 専修大学学生相談室編 2004 学生相談室報告書, 第17号.
- 専修大学学生相談室編 2005 学生相談室報告書, 第18号.
- 津田塾大学ウェルネス・センター編 2001 津田塾大学ウェルネス・センター報告書 (第16号, 2000年度).
- 東京学芸大学保健管理センター編 2002保健管理センター活動状況 (平成10年度～平成12年度).
- 東京学芸大学保健管理センター編 2005 保健管理センター活動状況 (平成13年度～平成15年度).
- 東京工業大学保健管理センター編 2001 教職員のための学生サポート・ガイドブック改訂版一.
- 東京工業大学保健管理センター編 2001 保健管理センター年報, 第28号 (平成12年度).
- 東京工業大学保健管理センター編 2003 保健管理センター年報, 第30号 (平成14年度).
- 東京工業大学保健管理センター編 2004 保健管理センター年報, 第31号 (平成15年度).
- 東京大学学生相談室所 (本郷) 編 2001 東京大学学生相談所紀要, 第12号, 2001.
- 東京都立大学学生相談室編 2004 学生相談室レポート, 第30号.
- 東京都立大学学生相談室編 2004 学生相談室レポート, 第31号.
- 東洋大学学生相談室編 2004 学生相談室報告書, 第5号 (2003年度).
- 名古屋大学学生相談総合センター編 2001 名古屋大学学生相談総合センター紀要, 創刊号, 2001.
- 名古屋大学学生相談総合センター編 2003 名古屋大学学生相談総合センター紀要, 第2号, 2002.
- 名古屋大学学生相談総合センター編 2004 名古屋大学学生相談総合センター紀要, 第3号, 2003.
- 名古屋大学学生相談総合センター編 2005 名古屋大学学生相談総合センター紀要, 第4号, 2004.

- 日本女子大学カウンセリングセンター編 2002  
カウンセリング・センター報告, 第25号 (2001),  
大学教育とカウンセリング.
- 日本女子大学カウンセリングセンター編 2003  
カウンセリング・センター報告, 第26号 (2002),  
大学教育とカウンセリング.
- 日本大学本部学生相談センター編 2003 日本大  
学学生相談室報告書, 第29号 (平成13年度・2001  
年度).
- 日本大学本部学生相談センター編 2004 日本大  
学学生相談室報告書, 第30号 (平成14年度・2002  
年度, 平成15年度・2003年度).
- 弘前大学保健管理センター編 2002 弘前大学保  
健管理概要, 第23号.
- 広島修道大学学生相談室編 2005 学生相談 広  
島修道大学学生相談室報告書, 第9号.
- 広島市立大学編 2001 医務室・学生相談室 活  
動報告, 2000年度 (第7号)
- 広島大学総合科学部学生相談室編 2001 学生相  
談室活動報告書, 第25号, 2000.
- 広島大学総合科学部学生相談室編 2002 学生相  
談室活動報告書, 第26号, 2001.
- 広島大学保健管理センター編 2004 総合保健科  
学, 第20巻, 2004.
- 広島大学保健管理センター編 2005 総合保健科  
学, 第21巻, 2005.
- 福岡教育大学保健管理センター編 2001福岡教育  
大学保健管理センター特別レポート教育を考え  
る-X, 2000.
- 福岡教育大学保健管理センター編 2002福岡教育  
大学保健管理センター特別レポート教育を考え  
る-X I, 2001.
- 福岡教育大学保健管理センター編 2003福岡教育  
大学保健管理センター特別レポート教育を考え  
る-X II, 2002.
- 福岡教育大学保健管理センター編 2004福岡教育  
大学保健管理センター年報 教育を考える-X  
III, 2003.
- 福岡教育大学保健管理センター編 2005福岡教育  
大学保健管理センター年報 第14号, 2004.
- 福岡大学ヒューマン ディベロップメント セン  
ター編 2004 ヒューマン ディベロップメン  
ト センター (HDセンター) 報, 第19号.
- 福岡大学ヒューマン ディベロップメント セン  
ター編 2005 ヒューマン ディベロップメン  
ト センター (HDセンター) 報, 第20号.
- 武蔵大学学生相談室編 2001 学生相談室報告  
書, 第9号 (2000年度).
- 武蔵大学学生相談室編 2002 学生相談室報告  
書, 第10号 (2001年度).
- 武蔵大学学生相談室編 2003 学生相談室報告  
書, 第11号 (2002年度).
- 武蔵大学学生相談室編 2004 学生相談室報告  
書, 第12号 (2003年度).
- 明治学院大学学生相談センター編 2001 学生相  
談センター報告書, 第4号, 2001年.
- 明治学院大学学生相談センター編 2002 学生相  
談センター報告書, 第5号, 2002年.
- メンタルヘルス研究協議会運営委員会編 2000  
メンタルヘルス研究協議会 平成12年度報告  
書.
- メンタルヘルス研究協議会運営委員会編 2002  
メンタルヘルス研究協議会 平成13年度報告  
書.
- メンタルヘルス研究協議会運営委員会編 2003  
メンタルヘルス研究協議会 平成14年度報告  
書.
- メンタルヘルス研究協議会運営委員会編 2004  
メンタルヘルス研究協議会 平成15年度報告  
書.
- 桃山学院大学 学生相談室編 2001 学生相談室  
報告書, 第11号.
- 山形大学保健管理センター編 2003 2002年度版  
山形大学保健管理センター紀要, 第2号.
- 山口大学学生相談所編 2003 山口大学学生相談  
所年報, No.13・No.14合併号.
- 横浜国立大学保健管理センター編 2003 横浜国  
立大学保健管理センター年報, 第23号 (平成14  
年度).
- 横浜国立大学保健管理センター編 2004 横浜国  
立大学保健管理センター年報, 第24号 (平成15  
年度).